

Technical Information	
文書番号	SYMC-SBG-100525-1
タイトル	Symantec Brightmail Gateway Version 9.0.1-10 リリースノート
対象機器	Symantec Brightmail Gateway 8200/8300 Series
ソフトウェアバージョン	9.0.1-10
プラットフォーム	-
参照	-
問合せ先	日商エレクトロニクス株式会社 ソリューションパートナー事業本部 技術統括部 サポート第二グループ E-mail: symc-support@nissho-ele.co.jp

本書について

Symantec Brightmail Gateway 8200/8300 Series(以下 SBG) Version 9.0.1-10 に関する情報が含まれています。

本リリースについて

SBG Version 9.0.1-10 は、従来の SBG Version 9.0.0-20 のパッチアップデートとなります。

リソース

詳細な情報は以下より入手可能です。

<メーカーマニュアル/メーカーリリースノート(日本語)>

<http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/enterprise/sbm/9.0/manuals.html>

<メーカーナレッジベース(英語)>

http://www.symantec.com/business/support/knowledge_base_sli.jsp

新機能または強化点

Version 9.0 の主な新機能 (Version 8.0 と比較) は以下となります。

- ・ ディレクトリデータサービス
 - 従来の LDAP 連携機能に加え、LDAPS での通信が可能となりました。
- ・ プロープアカウント
 - 未使用の電子メールアドレスや無効な電子メールアドレス宛に送られたメールをプロープネットワーク (Symantec 社) に転送し、スパムフィルタの作成に役立てます。
- ・ コンテンツ暗号化
 - SaaS 型の暗号化サービスとなりますが、日本での販売はしていません。
- ・ SMTP 認証
 - SMTP 認証の設定が可能となりました。
 - LDAP 認証を行うか、MUA によって供給されたクレデンシャルを認証の為に、別の SMTP サーバに転送することができます。
- ・ ドメインあたりの非ローカル SMTP 配信バインド
 - 非ローカルメッセージの送信元 IP アドレスをドメイン固有に指定することが可能となりました。
- ・ メッセージキューの改善
 - 配信キューに滞留したメールを配信先の指定をして Flush することが可能となりました。
 - 特定の経路または一連の経路からメッセージを検索できるようになりました。
- ・ エラーレベルのスキナログのオンライン情報へのリンク
 - エラーレベルのスキナログの隣にある疑問符アイコンをクリックすることにより、その情報を示す Web ページが表示されるようになりました。
- ・ 定時タスク
 - 各定時タスクの状態が 1 つのページで追跡できるようになりました。

- ・ ログ記録の強化
 - 設定によりディスクの空き容量が閾値を下回った場合にログの出力を縮小または停止することができるようになりました。
 - ログ出力が縮小または停止した際には電子メール通知が送信されます。
- ・ インバウンド及びアウトバウンドメッセージに使用する IP アドレスとポート
 - インバウンド及びアウトバウンドメッセージの両方で同一の IP アドレス・ポートが使用できるようになりました。
- ・ 先払い料金詐欺メッセージに対応した新しいルール
 - 先払い料金詐欺(419 スпам)を検出するようスパム対策モジュール(stasig)が強化されました。
- ・ 診断パッケージ(diagnostics)
 - トラブルシューティングの際にコントロールセンターで診断パッケージ(diagnostics)を作成できるようになりました。
- ・ 日付形式と時刻形式
 - 管理者が日付形式と時刻形式を設定できるようになりました。
 - 適用される項目は詳細表示・リスト表示・メールボックス表示・レポートコンポーネントとなります。
- ・ DKIM 認証
 - 送信者認証に DKIM(DomainKeys IdentifiedMail) 認証が使用できるようになりました。
- ・ コンテンツフィルタ
 - コンテンツコンプライアンスからコンテンツフィルタに名称が変更となりました。
 - コンテンツフィルタ機能が強化されました。

変更された内容

Version 9.0 で変更された内容 (Version 8.0 と比較) は以下となります。

- ・ 配信用のリレーとして最大 3 つまでであった静的経路の設定に、制限がなくなりました。
- ・ スпамフィルタの更新頻度が毎分となり、脅威に対する即応性が向上されました。
- ・ 管理画面のタブが【コンプライアンス】から【コンテンツ】に名称が変更されました。
- ・ CLI でのコマンドが再設計されました。

Version 9.0.1-10 で変更された内容はございません。

追加/修正内容

- Version 9.0.0-20 の追加及び修正内容は以下となります。
 - ・ SBG の Interface1、Interface2 の両方に同一のサブネットを設定した場合でも、Interface2 の MAC アドレスが正しく返されるようになりました。
 - ・ MTA ログレベルが“情報”の場合に、メールログに宛先 (To:) が含まれるように改善されました。
- Version 9.0.1-10 の追加及び修正内容は以下となります。
 - ・ ポリシーグループでコンテンツフィルタ・IM NAC・エンドユーザの各設定が無効になっている場合において、ポリシーグループの作成を行う際にポリシーグループの編集ページではなく、プローブアカウントページが表示される問題が修正されました。
 - ・ プローブアカウントのポリシーグループを削除した際のメッセージを明確に表示されるよう改善しました。
 - ・ DKIM 認証を使用している SBG から gmail へ送信した際に、DKIM 認証に失敗する事象が修正されました。

日商ナレッジ

- ・ メッセージ監査ログの検索結果が最大設定値の1000件を超えた件数が表示される場合があります。
1通のメールで複数の宛先が含まれている場合、To 毎に件数が表示されるために、検索結果で表示される件数は最大設定値の1000件を超えた件数が表示されます。
- ・ メッセージ監査ログの処理に「メッセージを中止する」と表示される場合があります。
「メッセージを中止する」とは送信元から SBG へメール送信する通信中にセッションが終了した場合に記録されます。
調査方法は、SBG が接続されている SWITCH 側にてパケットを取得後に、送信元と SBG のどちらがパケットを切断しているかご確認下さい。
SBG が切断している場合には弊社にて調査させていただきます。

既知の問題/注意事項

現在、Version 9.0.1-10 で確認されている問題は以下となります。

ここに記載の内容以外の問題に関しましてはメーカーリリースノートをご覧ください。

-
- ・ ウイルスのアクションがクリーニングで RAR 形式の圧縮ファイルからウイルスを検出した場合、圧縮内のウイルスのみ削除せず、RAR ファイル自体が削除されます。
この動作により RAR ファイル内のウイルスに感染していない正常なファイルも削除されます。
-
- ・ Internet Explorer8にてスクロールバーを使用した場合に、ブラウザがクラッシュする場合があります。このクラッシュは Internet Explorer8 に限定されており、他のサポート対象ブラウザでは発生しません。
-
- ・ コマンドラインから update check を実行した場合にエラー (E:Conf Broken sbg-dds) が表示されることがありますが、機能上の問題を示すものではありませんので、無視頂いて問題ございません。
-
- ・ private key とサーバ証明書のエクスポート、インポートは出来ません。

-
- ・ インスタントメッセージ機能はサポート対象外とさせて頂いております。
-
- ・ Vontu Network Prevent 機能はサポート対象外とさせて頂いております。
-
- ・ 複数台構成において ScannerOnly の機能を使用して 1 台の ControlCenter で集中管理する構成を弊社が構築していない場合、保守サポートのご提供は致しかねますのでご了承の程お願い申し上げます。
 - 2007 年 10 月 10 日以前に上記構成で弊社と保守契約をご締結のお客様は引き続きサポートさせていただきます。
-
- ・ レピュテーション > 悪い送信者の「シマンテックグローバルの悪い送信者」を有効。「SMTP 接続を拒否する」、「SMTP 接続を遅延する」を選択した場合、拒否や遅延以外の動作になる場合があります。
 - 動作説明経路: MTA1 MTA2 SBG の経路で SBG へメールを送信した場合
 - MTA2 の IP アドレスが「シマンテックグローバルの悪い送信者」と判定された場合は拒否、遅延の動作を行います。
 - MTA1 の IP アドレスが「シマンテックグローバルの悪い送信者」と判定された場合はメールを一度受信している為に拒否、遅延の動作が出来ずに次の動作になります。
 - 拒否を選択している場合: メールが削除され受信者にメールが届きません。
 - 遅延を選択している場合: メールが削除され受信者にメールが届きません。
- また、送信者に対して以下のバウンスメールを送信します。
- 件名: Returned Mail
- 本文: Your message could not be delivered for the following reasons.
- This message has been blocked.

-
- ・ コマンドラインを使用してサービスを停止した場合に、管理画面からサービスを開始することが出来ません。
-

アップグレードについて

Software Update(ソフトウェアの更新)にて入手/適用可能です。

アップグレード後に自動で OS の再起動が行なわれます。

<アップグレードの注意事項>

- ・ アップグレード前にバックアップを作成してください。
- ・ アップグレード前にメールの受信をしないようにして各キューを解除 (Flush) することを推奨します。
 - [管理] -> [設定] -> スキャナのホストをクリックする。
 - 「着信メッセージを受け入れない」を選択して保存をする。
 - アップグレード後は「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択して、保存してください。
- ・ アップグレードを行う際には検疫メールを削除して頂く事を推奨しております。
 - 検疫メールを削除せずにアップグレードを実施した場合、完了までに数時間かかる場合があります。また正常に起動しない場合もございます。
- ・ 更新開始から完了まで、再ブートやシャットダウンを実行しないでください。
- ・ V9.0にアップグレードを行うにはV8.0.3-11にする必要があります。V8.0.3-11未満のバージョンから直接V9.0にアップグレードはできませんのでご注意ください。
 - V8.0.3-11未満のバージョンをご利用いただいているユーザ様は、アップグレードを行う前に、8.0.3-11リリースノートを参照ください。

<V8.0.3-11 リリースノート>

<http://www.nissho-ele.co.jp/product/symantec/key/news/v80311note.pdf>

➤ V9.0.0-20 からのアップグレード方法

1-1.MTA サービスの停止

GUI にて SBG へログイン後に、管理 -> ホスト -> LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

1-2. Mail Queue のフラッシュ

CLI にて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>mta-stats
```

d_msgs: i_msgs: o_msgs: の数字が Queue の数になります。

1-3. Control Center サービスの停止

CLI にて下記コマンドを入力し Control Center サービスを停止させます。

本操作実施後は GUI にてログインができなくなります。

```
> service controlcenter stop
```

1-4. Ver9.0.1-10 へアップグレードの実施

CLI の「install」コマンドにてアップグレードを行います。

```
> update install 9.0.1-10
```

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

ダウンロード中に下記のエラーが表示された場合は再度 install コマンドにてアップグレードを実施してください。

```
E: Unable to fetch some archives, maybe run apt-get update or try with --fix-missing?
```

```
Fetches 152MB in 59m50s (42.3kB/s)
```

```
Err No such file or directory
```

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

1-5. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 9.0.1-10であることを確認してください。

```
>show --version
```

1-6.MTA サービスの起動

GUI にて SBG へログイン後に管理 -> ホスト -> LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

➤ V8.0.3-11 からのアップグレード方法

2-1. MTA サービスの停止

GUI にて SBG へログイン後に、管理 -> ホスト -> LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

2-2. Mail Queue のフラッシュ

CLI にて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>mta-stats
```

delivery_queued_msgs: inbound_queued_msgs: outbound_queued_msgs: の数字が Queue の数になります。

2-3. Control Center サービスの停止

CLI にて下記コマンドを入力し Control Center サービスを停止させます。
本操作実施後は GUI にてログインができなくなります。

```
> service controlcenter stop
```

2-4. Ver9.0.1-10 へアップグレードの実施

CLI の「install」コマンドにてアップグレードを行います。

```
> install 9.0.1-10
```

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

ダウンロード中に下記のエラーが表示された場合は再度 install コマンドにてアップグレードを実施してください。

```
E: Unable to fetch some archives, maybe run apt-get update or try with --fix-missing?
```

```
Fetches 152MB in 59m50s (42.3kB/s)
```

```
Err No such file or directory
```

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

2-5. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 9.0.1-10であることを確認してください。

```
>show --version
```

2-6.MTA サービスの起動

GUI にて SBG へログイン後に管理 -> ホスト -> LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

➤ V5/V7/V8.0.1-7/v8.0.2-12 からのアップグレード方法

3-1. MTA サービスの停止

GUI にて SBG へログイン後に設定(v7,v8 では管理) -> ホスト -> LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

3-2 Mail Queue のフラッシュ

CLI にて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>mta-stats
```

delivery_queued_msgs: inbound_queued_msgs: outbound_queued_msgs: の数字が Queue の数になります。

3-3. Control Center サービスの停止

CLI にて下記コマンドを入力し Control Center サービスを停止させます。
本操作実施後は GUI にてログインができなくなります。

```
> service controlcenter stop
```

3-4.Ver8.0.3-11 へアップグレードの実施

CLI の「install」コマンドにてアップグレードを行います。

```
> install 8.0.3-11
```

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

ダウンロード中に下記のエラーが表示された場合は再度 install コマンドにてアップグレードを実施してください。

```
E: Unable to fetch some archives, maybe run apt-get update or try with --fix-missing?
```

```
Fetches 152MB in 59m50s (42.3kB/s)
```

```
Err No such file or directory
```

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

3-5. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 8.0.3-11 であることを確認してください。

```
>version
```

3-6. Control Center サービスの停止

CLI にて下記コマンドを入力し Control Center サービスを停止させます。

本操作実施後は GUI にてログインができなくなります。

```
> service controlcenter stop
```

3-7. Ver9.0.1-10 へアップグレードの実施

CLI の「install」コマンドにてアップグレードを行います。

```
> install 9.0.1-10
```

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

ダウンロード中に下記のエラーが表示された場合は再度 install コマンドにてアップグレードを実施してください。

```
E: Unable to fetch some archives, maybe run apt-get update or try with --fix-missing?
```

```
Fetches 152MB in 59m50s (42.3kB/s)
```

```
Err No such file or directory
```

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

3-8. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 9.0.1-10 であることを確認してください。

```
>show --version
```

3-9. MTA サービスの起動

GUI にて SBG へログイン後に管理 -> ホスト -> LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

ダウングレードについて

CD リストア以外に方法は、ございません。

<参考:メーカーナレッジベース>

<http://service1.symantec.com/SUPPORT/ent-gate.nsf/docid/2005040414130363>

改訂履歴

2010/5/25 初版

以上